

# 令和3年度 事業報告書

自：令和3年4月1日

至：令和4年3月31日

社会福祉法人いこま福祉会



# I . 法人本部

## 1. 法人本部

### (1) 人材獲得・定着・育成

#### ①人材獲得

- ・新卒採用では、WEBによる事業所説明会を中心に学生に向けて発信を行った。事業所説明会は昨年度を上回る人数が参加。応募選考に進む人材も微増している。その中で、常勤職員の新卒採用者は2名、中途採用者が3名、嘱託職員の中途採用者が1名採用することができた。
- ・2023年度卒の学生に向けた採用活動も始まっており、マイナビの秋冬インターンシップへの参画やFaceToFukushiのダイレクトリクルーティング型企画にも参加した。当法人に興味を持ってWEBによる事業所説明会に参加した学生もあり、早い段階で新卒採用に向けた学生との接点をもつことができた。
- ・有料求人広告や求人チラシの配布、学校等への訪問を通じて、アルバイトやサポート職員の採用活動も行った。
- ・社会福祉士の実習に1名、介護実習に3名の受け入れを行った。新型コロナウイルスの影響により令和3年度も介護等体験や保育士実習は中止となった。

#### ②職員ヒアリング

- ・10月後半から11月にかけて各事業所で所属職員へのヒアリングを実施した。業務に対する振り返りを行い、今後の業務に対する目標や勤務形態に対する聞き取りを行った。4月から同一労働同一賃金に伴って給与改定を行ったが、サポート職員の中には収入の増加により扶養範囲で働くための相談等も挙がっていた。

#### ③法人内研修の充実

- ・法人内研修については、新型コロナウイルスの感染予防の観点から、大勢が集まる機会での研修実施は行っていない。ただし、WEB等における研修の機会は多くなっており、そうした形態での外部研修等には積極的に参加することができた。

### (2) 虐待防止に対する取り組みについて

- ・虐待防止は日々の現場支援業務の中で支援方法の検証や意思決定支援としてメンバーの思いを考察するやりとりを行った。
- ・令和3年度中の虐待防止委員会の設置には至らなかったが、令和4年度からの設置に向けて、虐待防止研修の受講や施設長会議等で検討を重ねた。

### (3) ICT 活用整備促進について

- ・ICT の活用についての研修会に参加したり、スケジュール管理システム（グループウェア）の業者からの説明を聞くなど、次年度に取り入れられるように準備を進めた。
- ・インターネット環境については、セキュリティの整理を行い、各 PC へのウイルスバスターの導入、サーバーのセキュリティシステムをインターネット回線業者と統一するなどの整理を実施した。

### (4) 事業推進

#### ①暮らし

- ・「暮らしプロジェクト」を中心に小瀬のグループホーム建設計画を進めてきた。建設を進めるにあたって、令和 3 年度は小瀬の土地の造成工事が完了した。近隣住民への説明や工事に対する意見等にも対応し、円滑な工事の実施に努めた。

#### ②海外支援・交流

- ・新型コロナウイルスの影響で中断が続いていた JICA 草の根技術協力事業を令和 3 年 10 月より再開した。11 月には新型コロナウイルスのワクチンを 2 回接種したことや感染状況の落ち着きを見計らって 1 名がセルビアへ渡航。中断期間中の紙漉き事業の進捗、課題やメンバーの活動の参加状況など事業の進捗を確認した。

#### ③地域公益

##### a. いこいこまつり

- ・いこいこまつりは今年度も中止することとなった。実行委員会では、令和 3 年度のまつりの中止の判断だけでなく令和 4 年度の開催に形をかえて行える方法はないかを検討した。

##### b. やまびこネットワーク（壱分小学校区市民自治協議会）

- ・やまびこネットワークとの共催企画「子ども会さつまいもイベント」は新型コロナウイルスの感染状況により検討を重ねた結果、中止となった。
- ・11 月に行われた「まちづくりワークショップ」に参加し、現代のコミュニティ組織について考える機会を持った。
- ・さつき台第一公園の落ち葉遊びの企画に参加し、子どもたちが遊んだ後の落ち葉を回収させていただき、腐葉土として農業の堆肥づくりに活用した。

#### ④いこま福祉会法人設立 20 周年記念

- ・いこま福祉会 20 周年記念祝賀会の開催に向けて実行委員会、準備委員会、記念誌作成委員会を立ち上げ準備を進めた。記念誌作成委員会では、作業所時代から立ち上げに尽力されてきたご家族にも協力いただき記念誌の作成に時間をかけて取り組んだ。

#### (5) 自律支援部

- ・今年度、各ご家庭へ訪問させていただき、今まで知らなかったご本人のご自宅での過ごし方や様子等を直接見聞きできた経験は、職員にとって「ご本人理解」という観点から非常に有意義な学びとなった。また、年齢を重ねることでの障害の重度化だけでなく、ご家族の体調不良等が増えて GH や福祉ホームでの暮らしを間近に考えているというお話をたくさんお聞かせいただく中で、それぞれの想いや希望を職員間で共有し、ニーズの確認を行うことができた。
- ・自分でできていたことができなくなってきた、今まで通りの作業ペースではご本人がしんどい様子が見られる等、今まで以上に支援が必要になるメンバーが増えてきた。認知症や難病等、予期できないことも起こるが、自律支援部として事業所間の垣根を越えて必要な情報共有に努め、できる限り関わる職員が意思統一を行い、同じ支援を行えるよう、連携強化の動きを取ることができた。

#### (6) 法人事務局職員体制

- ・事務長 常勤 1 名
- ・経理係長 常勤 1 名
- ・事務員 常勤 2 名、サポート 4 名
- ・運行 嘱託 1 名、サポート 5 名
- ・栄養士 常勤 1 名
- ・看護師 常勤 1 名、サポート 2 名

#### (7) 情報発信

- ・かざぐるま通信を 11 月に発行し、法人全体の活動や状況報告を行った。
- ・いこまふくしかいだよりを 6 月、11 月、3 月に発行した。通所事業の活動報告や農業プロジェクト、イベント報告、新型コロナウイルスに関する情報などを発信した。
- ・ホームだより（ほっこり time）を 7 月と 12 月に発行した。アルバイト職員の紹介やイベントの実施報告や小瀬グループホームの進捗などを発信した。

- ・ホームページによる情報発信を行い、随時休日開所やイベント行事などの様子を発信した。
- ・養護学校に通学する子どもの保護者に向けて施設説明会を実施した。4名の保護者が参加し、各事業所の見学や説明、卒業後の進路についての質問や相談に応じた。

#### 第三者委員 報告（令和3年度）

- ・令和3年度中に第三者委員会で審議された案件は、0件でした。

#### （8）リスク対応

- ・新型コロナウイルス対策会議を7回実施した。新型コロナウイルスの感染状況に伴い、サービスの提供範囲の検討や新型コロナウイルス対策備品の確認、業務継続計画の策定に向けての検討等を行った。
- ・令和4年1月に発生したクラスターの発生時には、感染症対策の専門の医師、看護師にも来所していただき、ゾーニングの確認や感染防止対策のアドバイスを直接受けた。
- ・全体のリスクマネジメント委員会の開催には、新型コロナウイルスの感染防止の観点から令和3年度も至らなかったが、毎月各事業所でリスクマネジメント委員会を開催し、事故報告やヒヤリハットについての振り返りや検証の機会を持った。
- ・年2回の避難訓練を実施。避難経路の確認や避難時間、消火器の使用方法を確認した。

#### （9）施設設備

- ・9月～10月にかけて、かざぐるま増設側の空調入れ替え工事を実施した。部品の供給不足等もあったが、工期どおり入れ替え工事を完了させることができた。
- ・令和2年11月から着手してきた小瀬町の土地造成工事が令和3年7月に完了した。約1ヶ月ほど工期は遅延したが、近隣住民からのご意見や説明等も随時行いながら工事を終えることができた。

#### 【職員有給休暇消化率】（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

※常勤46名、嘱託8名、サポート50名、アルバイト40名

部課	消化率（%）
全職員	31.1%
日中関係部署	44.3%
ホーム関係部署	13.6%

## II. 日中活動部門



## II.日中活動部門

### 《総括》

年齢差だけでなく、それぞれのメンバーの抱える障がいの種類や生活しづらさ、障がいの程度がますます複雑化・多様化している中で、できるだけ個々のニーズに添い、ご本人の「やりたいこと」を聞きながら様々な作業を提供することができた。特に環境面では、必要に応じて個別の部屋を準備する等、できるだけ配慮を行った。コロナ禍で十分とは言えなかったが、工夫して余暇イベントや外出の機会を数回実施することができ、メンバーのリフレッシュにつながることができた。また、念願だった北部事業所『ひより』を開所することができ、農業や加工作業に重点を置いた活動を展開できる拠点が増えることとなった。

### 農業プロジェクト

- ・年間を通して、概ね計画通りの作物を栽培、収穫することができた。(詳細は別紙参照)
- ・加工トマトの収量は 1,000 キロを超え、今年度は例年より実がきれいで廃棄も少なかった。
- ・引き続き新型コロナウイルスが猛威を振るい、農業関係のイベント等はほとんど中止することとなった。しかし、「農業プロジェクト会議」や「ファームミーティング」を定期的を実施することで、農業関係の外部出店や加工作業のこと等について現場の視点からじっくり議論し、農業に関する知識を共有することができた。

### 働くプロジェクト

- ・コロナ禍の中で販売機会が減少したため、トマトジュースなどの加工品やクッキーやパウンドケーキ、2022年版カレンダーの保護者販売を行い、一定のご注文をいただくことができた。しかし、工賃向上や売り上げアップに結び付けることはできなかった。
- ・余暇を充実させることで仕事への活力につなげてもらうため、メンバーに対して“食のイベント”を開催した。時間を区切りながら実施したので密になることもなく、笑顔が溢れていい気分転換になり楽しんでいただくことができた。年度末にも実施予定だったが、コロナ禍の影響で中止となった。

## 1. かざぐるま（就労継続支援B型・生活介護）・かざぐるまえーる（生活介護）

### （1）総括

- ・年間を通して家庭訪問を実施し、将来の生活を見据えながら個々のニーズやご家族の思い等を聞き取ることで今後の支援のヒントをたくさん得ることができた。
- ・高山地区に、新たな活動拠点である『ひより』を開所することができた。
- ・十分にはご自身の意思確認が難しいケースもあったが、可能な限り今まで以上にメンバー自身の気持ちや考えを汲みながら支援ができるよう、環境改善に努めた。

### （2）職員体制

#### 【かざぐるま（生活介護・B型）】

- ・施設長 常勤1名（サービス管理責任者兼務）
- ・支援員 常勤4名 嘱託1名 サポート12名

#### 【かざぐるまえーる】

- ・施設長 常勤1名（サービス管理責任者兼務）
- ・支援員 常勤6名 サポート7名

### （3）利用者の状況

#### 【かざぐるま】（令和4年3月31日現在）

##### ① 年齢構成

	20歳以下	21～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳	71歳以上	計	平均
男	1	5	8	6	4	1	0	25	38.5
女	1	3	9	3	1	0	0	17	40.1
計	2	8	17	9	5	1	0	42	39.3

##### ② 障害の程度 区分認定

	区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
男	0	0	0	0	12	8	5
女	0	0	0	0	4	8	5
合計	0	0	0	0	16	16	10

### ③ 稼働率

かざぐるま【定員数 40 名 契約者数 42 名】							
	開所日数	通所人数	稼働率		開所日数	通所人数	稼働率
4 月	21	43	103%	10 月	21	43	103%
5 月	18	43	100%	11 月	20	43	100%
6 月	22	43	100%	12 月	20	42	96%
7 月	20	43	102%	1 月	19	42	98%
8 月	18	43	100%	2 月	18	42	98%
9 月	20	43	102%	3 月	22	42	97%

#### 【稼働率分析】

- ・コロナ禍ではあったが、4 月～11 月にかけてはほぼ 100%の稼働率を達成していたが、冬場になり体調を崩す方も出てきたため、12 月以降は 90%台の稼働率となった。

#### 【かざぐるまえーる】（令和 4 年 3 月 31 日現在）

##### ① 年齢構成

	20歳以下	21～30 歳	31～40 歳	41～50 歳	51～60 歳	61～70 歳	71歳以上	計	平均
男	0	5	7	3	2	0	1	18	39.4
女	0	0	5	3	1	0	0	9	41.1
計	0	5	12	6	3	0	1	27	40.3

##### ② 障害の程度 区分認定

	区分なし	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
男	0	0	0	0	0	3	15
女	0	0	0	0	1	0	8
合計	0	0	0	0	1	3	23

### ③ 稼働率

かざぐるまえーる【定員数 20 名 契約者数 27 名】							
	開所日数	通所人数	稼働率		開所日数	通所人数	稼働率
4 月	21	26	117%	10 月	21	27	123%
5 月	18	27	123%	11 月	20	27	117%
6 月	22	27	120%	12 月	20	27	116%
7 月	20	27	121%	1 月	19	27	98%
8 月	18	27	122%	2 月	18	27	111%
9 月	20	27	122%	3 月	22	27	118%

#### 【稼働率分析】

- ・えーるは週 1～3 回程度の通所メンバーが数名おられ、体調不良で自宅療養しているメンバーもおられたが、契約者数が定員数を上回っていることもあり、稼働率としては 110～120%台となっている。また、1 月は新型コロナウイルスによる体調不良者がおられたため、稼働率が 90%台となっている。

#### (4) 重点方針及び事業内容 取組結果

- 令和 4 年度北部事業所の開所に向けた家庭訪問の実施と個別面談の充実化
  - ・約半年かけて、予定していた家庭訪問先に行かせていただくことができた。事業所では見られない一面をご家族から教えていただいたり、幼少期のエピソードを聞いたりしてご本人の理解につながる時間となった。
  - ・『ひより』の開所に伴い、班体制の見直しも行い、相性やそれぞれのメンバーの特性や得意な作業等から検討を重ね、メンバーがより過ごしやすい環境を目指して班を再編することとなった。
- 意思決定支援の強化
  - ・自分の気持ちをうまく表現できないメンバーに対しては、何か選んだり決めたりする場面において職員が勝手に決めるのではなく、ご本人に様々な手段で確認したり意思表出を促したりするよう取り組んだ。スケジュールや写真等の視覚支援を取り入れて見通しを持てるよう環境を整えることで安心して過ごすことができ、その安心感から自分の想いや気持ちを筆談で伝えたり慣れた職員に耳打ちして伝えてくださる場面等も見られた。
- 班の垣根を超えた活動場面の構築
  - ・軽作業や農業では各班が合同で作業を行う場面があり、そこでの作業の様子やメンバー同士の相性や雰囲気等を見ながら切磋琢磨できる環境となっていた。班の再編においても作業スピードや環境面の配慮等を確認できる場面を

多く持てたことは、非常に意味があった。ただし、コロナ禍において下半期は特に班ごとでの活動が多くなり、今まで以上に手指消毒や換気等を徹底して作業活動に取り組む必要があった。

#### (5) 職員育成

- ・通所するメンバーの増加に伴って、メンバー同士の相性や環境面の手狭さから班内では過ごしにくい方も増えてきた。担当職員が一人で抱えるのではなく、ホーム職員を含めた関係職員間での情報共有やアイデアの交換等を円滑に行うような働きかけを継続して行った。職員会議では毎回各班から、取り組んでいる支援についてケース報告の時間を設け、発表することで職員全体の支援力の向上を目指したが、職員の個々のスキルの差や支援方針の違い等、課題が多かった。
- ・自閉症 e サービスの中山先生や言語聴覚士の松下先生等、専門家の力も借りながら多様化するメンバーの過ごしにくさや生活のしづらさについて検討を重ね、支援のスキルアップに努めた。

#### (6) 地域との交流

- ・毎年継続してきた壺分小学校や生駒高校との交流については、コロナ禍のため十分には交流の場を持つことが難しかったが、密を避け人との距離を取れるイベント（学校の講演会等）にはできるだけ参加し、かざぐるまの作業活動について地域の子どもたちに知っていただけるよう、取り組んだ。
- ・近隣の公園で集まった落ち葉を回収し、保育園や幼稚園に運ぶお手伝いを行った。その後は再度回収に行き、畑の堆肥作りに使用した。このようなやりとりを重ねる中で、地域の方々との関係性を深めることができた。
- ・毎月継続して近隣地域の「野菜販売会」に参加させていただくことができた。また、新たに萩の台地区のコミュニティで定期的に行われている「野菜販売会」や市内の郵便局での出店等にもお声がけいただき、定期的に参加させていただくことができた。地域の中でかざぐるまの活動を知っていただける場、メンバーが作った商品を手にしていただける場が増えた一年となった。

#### (7) 施設設備

- ・「ひより」 改修工事費 78,269,900 円
- ・「ひより」 大型備品合計 6,092,268 円

【ボランティアとして活動くださった方々】

<班別/月別延べ人数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	班別 小計
いぶき	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
くらふと虹	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
なかま	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ひかり	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
かなで	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
笑風	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月別小計	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2

・出店/イベント状況

**定期**

- アントレ出店 (月 1~2 回程度)
- 福祉センター販売 (月 1~3 回程度)
- さつき台集会所野菜等出店 (月 1 回)
- 萩の台住宅地自治会出店 (月 1 回)
- 市内の郵便局出店 (月数回)

**土日**

- 5月 やまびこネットワークさつま芋植えイベント
- 7月 西大寺マルシェ
- 8月 小瀬町自治会竹灯籠まつり
- 11月 西大寺マルシェ 平群マルシェ  
環境フェスティバル 花・緑まちづくりフェスタふろーらむ
- 12月 障害者週間 西大寺マルシェ
- 1月 西大寺マルシェ
- 3月 福祉センター祭

<新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止により中止になったイベント>

どんどこまつり出店 いこいこまつり

やまびこネットワークさつま芋イベント 農業塾 at 風のファーム

## 2. きこり（生活介護）

### （1）総括

メンバーの特性に配慮して活動内容や作業提供の工夫を行った。全体的には障がい特性や体調等に配慮しながら活動することができたが、メンバーの状況によってはその都度環境整備の必要がある場面も見られた。また、不定期ではあるが、イベントや近隣の公園に行くなど余暇の機会を提供できたが、コロナ禍のため、定期的な余暇や大きなイベントは実施することができなかった。また、北部事業所の開所に伴い、班編成の見直しがあったため、家庭訪問の実施やご本人への意思確認など丁寧なアセスメントを心がけた。

### （2）職員体制

- ・施設長 常勤1名(サービス管理責任者兼務)
- ・生活支援員 常勤1名 サポート4名

### （3）利用者の状況

【きこり】（令和4年3月31日現在）

#### ① 年齢構成

	20歳以下	21～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳	71歳以上	計	平均
男	0	4	3	2	1	0	0	10	34.3
女	0	2	2	1	0	1	0	6	40.3
計	0	6	5	3	1	1	0	16	36.6

#### ② 障害の程度 区分認定

	区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
男	0	0	0	0	1	2	7
女	0	0	0	1	0	3	2
合計	0	0	0	1	1	5	9

### ③ 稼働率

きこり【定員数 20 名 契約者数 16 名】							
	開所日数	通所人数	稼働率		開所日数	通所人数	稼働率
4 月	21	17	76%	10 月	21	16	70%
5 月	18	16	69%	11 月	20	16	71%
6 月	22	16	70%	12 月	20	16	71%
7 月	20	16	70%	1 月	19	16	68%
8 月	18	16	72%	2 月	18	16	69%
9 月	20	16	72%	3 月	22	16	70%

#### 【稼働率分析】

- ・きこりでは他事業所やご家庭の都合により週 1～3 回の通所のメンバーが数名おられる。現状では契約者数が定員数を下回っていることもあり 1 年を通しての稼働率としては 60～70%台となっている。

#### (4) 重点方針及び事業内容 取組結果

##### ○メンバーの落ち着いた環境を提供する。

- ・4 月にメンバー 1 名が身体の状態や特性を踏まえて、より過ごしやすい場所で活動していただくために他事業所で数回実習を行い、5 月にかざぐるまえーの『かなで班』に異動することとなった。
- ・環境面では車内で窓を叩いてしまうメンバーがおられるのでラバーマットを敷いて予防したり、畑内で直接地面に座っても衣類などが汚れないようにフラットな板を用意して休憩スペースを設けるなど、障がいの程度にかかわらず安心して活動に参加できるように環境を整えた。

##### ○作業における環境設備の充実と特性に応じた作業の提供

- ・休憩しやすいよう庭先にベンチタイプの椅子を設置したり、竹炭窯の屋根を設置することで天候に左右されることなく安定して竹炭作業を行うことができた。継続して竹炭焼きをすることで、メンバーにはドラム缶にかぶせる土作りや土をかぶせる作業、加工の工程では竹炭を砕く作業など、竹炭作りに関わる新たな作業にもチャレンジしてもらうことができた。

##### ○地域との関わりの強化

- ・外出時の挨拶や自治会のクリーンキャンペーンに加え、今年度は西菜畑地区にある薬師堂の参道清掃にも参加させていただき、地域の方と交流する機会を持つことができた。
- ・年末や普段の活動時の挨拶や秋の焼き芋イベントでは、ご近所に焼きたての



焼き芋をおすそ分けした。このような交流を継続することで、竹炭焼きなどきこりの活動についても理解を示してくださっているように感じた。

(5) 地域との交流・連携の状況

- ・毎年実施されている地域清掃へメンバーと一緒に参加した。
- ・活動時（散歩の時や竹炭焼きの時など）に地域の方へ挨拶をした。

【ボランティアとして活動くださった方々】

<班別／月別延べ人数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	班別 小計
きこり	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

**3. 喫茶ゆうほー・工房 結（就労継続支援B型）**

(1) 総括

【喫茶ゆうほー】

今年度は、昨年に引き続き新型コロナウイルスの感染予防対策として、時短営業の実施や飛沫防止シートの活用など環境整備を行った。令和4年1月以降は新型コロナウイルスの感染拡大を懸念し、喫茶の休業を行ったことで結果的にメンバーの喫茶業務が縮小されるなどの影響があった。また、喫茶の再開やメンバーの活動については、コロナの状況に応じて臨機応変に対応したが、メンバーの業務については、時間を持て余したり手持無沙汰な時間を過ごされる場面も見られた。

【工房 結】

カレンダーの製造販売については、リストの漏れ落ちなどの不備があったが、概ね計画的に製造販売できたので、目標の販売枚数を達成することができた。作業面については、漉き手が不足しているため、今まで漉きの作業に参加していなかったメンバーにも新たに紙漉きの各工程を覚えてもらうよう取り組んだ。

また、地域の自治会へのパック回収や近隣の小学校への紙漉き体験などの機会を持つことができた。その新たな交流を通してメンバーが自分たちの仕事を誇りに思い、彼らの自信ややりがいにつながる経験となった。

(2) 職員体制

- ・施設長 常勤 1 名 (サービス管理責任者兼務)

【喫茶ゆうほー】

- ・支援員 嘱託 1 名 サポート 6 名

【工房 結】

- ・支援員 常勤 1 名 サポート 2 名

(3) 利用者の状況

【喫茶ゆうほー・工房 結】(令和 4 年 3 月 31 日現在)

① 年齢構成

	20 歳以下	21～30 歳	31～40 歳	41～50 歳	51～60 歳	61～70 歳	71 歳以上	計	平均
男	0	3	3	1	2	1	0	10	38.1
女	0	2	3	1	1	0	0	7	37.4
計	0	5	6	2	3	1	0	17	37.8

② 障害の程度 区分認定

	区分なし	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
男	1	0	1	1	3	1	3
女	0	0	1	1	5	0	0
合計	1	0	2	2	8	1	3

③ 稼働率

喫茶ゆうほ～【定員数 10 名 契約者数 7 名】							
	開所日数	通所人数	稼働率		開所日数	通所人数	稼働率
4 月	21	7	69%	10 月	22	7	69%
5 月	19	7	70%	11 月	19	7	69%
6 月	22	7	69%	12 月	20	7	68%
7 月	21	7	67%	1 月	20	7	69%
8 月	18	7	68%	2 月	18	7	66%
9 月	21	7	70%	3 月	23	7	67%

【稼働率分析】

- ・メンバーは 1 年を通して概ね元気に通所されていたが、契約者数が定員数を下回っていることにより、稼働率としては 70%前後となっている。

工房結【定員数 10名 契約者数 10名】							
	開所日数	通所人数	稼働率		開所日数	通所人数	稼働率
4月	21	11	95%	10月	21	10	84%
5月	18	11	91%	11月	20	10	86%
6月	22	11	88%	12月	20	10	85%
7月	20	10	83%	1月	19	10	82%
8月	18	10	83%	2月	18	10	83%
9月	20	10	85%	3月	22	10	85%

#### 【稼働率分析】

- ・週1回通所のメンバーが2名おられることや昨年6月に就労のため1名の方が退所されたことにより、稼働率が80～90%台となっている。

#### (4) 重点方針及び事業内容 取組結果

##### 【喫茶ゆうほー】

##### ○さをり教室の実施

- ・元養護学校教員の方にゆうほーの個室をお貸しして、7月17日(土)から“さをり工房「郷」”というさをり織り教室をスタートした。小学生を対象にしたイベントやマフラー作り体験を企画して実施した。お客様がいない時にはくらふと虹の縫製や洋服の仕立てを手伝っていただくことができた。しかし、集客については十分な成果が見られず今後の課題となっている。
- ・さをり織りが好きなメンバーが多いため、時間を決めてさをり織りをして気分転換してもらうことで、他の仕事(喫茶業務)の張り合いにもつながった。

##### ○テイクアウトメニューとデリバリーの強化

- ・テイクアウトメニューの販売方法について整理した。テイクアウトメニューは基本的に2階の喫茶で販売しているメニューに限定し、テイクアウトの商品数を減らすことで、商品管理をしっかりと行い、食材の無駄を抑えることができた。また、できるだけ早い時間から店頭の商品を並べておくことで、たくさんのお客様に購入していただくことができた。
- ・市役所でのお弁当配達の販売路拡大のため、今まで注文のなかった課にもチラシを配布したが、他にも弁当販売を行う業者もいたため、注文数の増加にはつながらなかった。

##### 【工房 結】

##### ○紙漉き作業の強化

- ・1名の方が6月に他の就労継続支援A型事業所に通うため退所された。漉き手

が減ったことで、他のメンバーにも紙漉き作業の各工程を覚えてもらうように取り組んだ。

- ・カレンダー販売に向けてスケジュールを立てて計画的に紙を漉いたが、販売先リストの漏れ落ち等の不備があった。今年はいこいこまつりが中止となったので目標販売数を700部から500部に変更し、最終的に522部販売することができた。
- ・さをりの生地を表紙に使った御朱印帳の作成は、補助具を使いながらメンバーが携わっているが、細かい工程では職員がサポートしなければいけない作業が多く、メンバーが中心となって作成できるまでには至らなかった。

\*名刺売り上げ・・・・・・・・242,340円（内、生駒市役所 49,900円）

\*カレンダー売り上げ・・・・522,000円（522冊）

#### ○紙漉きを通じた地域交流の実施

- ・いこま市民パワーという団体を介して“こみすて”を運営している萩の台住宅地自治会にパック紙の回収を協力していただけることになった。
- ・生駒南第二小学校から依頼を受け、小学生を対象に紙漉き体験を実施した。紙漉き体験ではメンバーが小学生に紙漉きの各工程を教えるなど、いい交流の場となった。
- ・新型コロナウイルスの影響により、絵手紙教室の団体との交流や幼稚園児の紙漉き体験などのイベントが実施できなかった。

#### （5）地域との交流・連携

##### 【喫茶ゆうほ一】

- ・地域の農家の方から定期的に野菜を購入したり、ご厚意でいただいたりするなどしてつながりを深めることができた。

##### 【工房 結】

- ・生駒南第二小学校との交流がきっかけでPTAの方とつながりを持つことができ、学校内に回収ボックスを設置して12月よりパック紙の回収に協力していただけることになった。
- ・たわわ食堂に参加させていただく予定だったが、今年度もコロナ禍の影響で実施されることがなく参加することができなかった。

【ボランティアとして活動くださった方々】

<班別／月別延べ人数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	班別 小計
工房 結	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【休日開所の参加状況】

休日開所【全体 65名】							
	登録総数	参加人数	参加率		登録総数	参加人数	参加率
4月	30名	30名	100%	10月	32名	32名	100%
5月	32名	31名	96.9%	11月	30名	30名	100%
6月				12月	32名	31名	96.9%
7月	30名	29名	96.7%	1月	29名	20名	69%
8月	32名	30名	93.8%	2月	32名	11名	34.4%
9月	30名	30名	100%	3月			

### Ⅲ.居住部門

## 暮らしプロジェクト

- ・小瀬プロジェクトでは、具体的なレイアウトの検討を行い大枠で具体的なレイアウトが決まってきた。補助金等についても県の担当者に相談を行った。
- ・GH 合併後運営状況の確認を暮らしプロジェクトの中でも行い、支援上の課題や体制上の課題について話し合った。
- ・地域移行プロジェクトでは、暮らしプロジェクトの中で、相談員や地域生活支援拠点の担当者からも状況を確認して一人暮らしをしているご本人の様子把握に努めた。

### 1. ラベンダー・一步の家・ポピー・クローバー（共同生活援助）

#### (1) 総括

暮らしプロジェクトを中心に、小瀬プロジェクトの具体的なレイアウトの検討を行い進めてきた。造成時に近隣の住民の方からお話もいただき、その都度真摯に対応をすることで、解決することができている。

また、新型コロナウイルスについて1月17日（月）に発生した法人内での新型コロナウイルスの感染により、ラベンダーで1名のメンバーが陽性になった。県内で新型コロナウイルスの陽性者が増え始めている時期であったが、法人全体で対応し医療機関に入院することができ、重篤化することなく退院することができた。また、約3週間、各ホーム内での待機になったことで、感染は拡大しなかったが運動の機会が減ったり、日中の過ごし方がうまくいかなかったり、感染対策以外のところでも検討が必要となった。命が最優先事項ではあるが、メンバーの待機時の過ごし方も日ごろから検討が必要だと理解できた。

加えて、新型コロナウイルス陽性者が出てから、可能な方は帰省を依頼したり、防護服の着用など感染対策に努めたことで、事業所内での感染の広がりを防ぐことができた。しかし、振り返ると、ゾーンニングや防護服の正しい着用方法の徹底、消毒の方法など見直さなければいけないところがたくさんあった。加えて、法人本部から離れていることやアルバイトスタッフがメインでかかわっていることから、アルバイトスタッフへの指導や感染拡大への対応などをどのように周知徹底するか日ごろからの研修や計画の必要性を実感し、早急に整備する必要があると理解できた。

#### (2) 職員体制

- ・施設長 常勤1名
- ・生活支援員 常勤4名 嘱託1名  
サポート3名 アルバイト30名

### (3) 利用者の状況

#### ①年齢構成

##### 【グループホーム】

	20歳以下	21～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳	70歳以上	平均年齢
男	0	0	5	5	1	0	0	41.1
女	0	0	5	9	2	0	0	42.2
計	0	0	10	14	3	0	0	41.8

#### ②障害の程度 区分認定

##### 【グループホーム】

	区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
男	0	0	0	0	1	3	7
女	0	0	1	0	2	5	8
合計	0	0	1	0	3	8	15

### (4) 重点方針及び事業内容 取り組み結果

#### ○小瀬地区プロジェクト具体的レイアウト/入居者想定

- ・くらしプロジェクトを中心に検討を重ね、大枠の具体的レイアウトが決まってきた。
- ・補助金申請については県の担当者にも確認を行い、申請可能な補助金に関してはその基準を満たすために必要な設計について検討した。
- ・小瀬開所のタイミングで入居を希望（想定）している方もいるが、実際には福祉ホームやグループホームへの入居ということも考えられることを周知していく必要もある。そのため、各ホームや地域での役割分担を検討し、発信していけるように課題を洗いだした。

#### ○人材確保/人材育成

- ・必要な時間帯での求人募集のチラシを作成し、日中活動のポスティングの活動の時に一緒に配布してもらうことで応募があったケースや大学関係での応募も数件あったが、十分な人材確保までに至らなかった。
- ・常勤職員の人数に関しては十分な配置であるが、現場に入るアルバイトスタッフやサポートスタッフの人員を充足させることができなかった。
- ・複数のホームを1名の常勤職員で対応するように検討をしていたが、アルバイトスタッフの十分な確保ができていないため、直接支援に入る時間が多くなっていることもあり、うまく進めることができなかった。そこで、事務的



な内容から分担して、複数の対応ができるように取り組みを始めることができた。

○たびだちの家の運営

- ・人員配置が十分ではない為、たびだちの家メンバーに週末帰省に協力いただいた。
- ・週末の開所の検討と適切な人員配置の検討を行うため、スタッフの業務スケジュールの見直しを現場スタッフとともに行った。
- ・業務マニュアルや支援マニュアルを作成しているが、スタッフへの共有が不十分な面があった。OJTを行う中で周知することができた。
- ・よりメンバーが主体的に安心した生活が送れることと、無駄な時間が生まれないように支援スタッフの適正な支援時間を見直し検討した。

○和家を利用した地域交流

- ・コロナ禍もあり、具体的に行動に移すことができなかった。
- ・自立支援協議会くらし部会から、地域の人の居場所づくりについての課題の中で、和家の利用についても検討されていたので、そのことも踏まえて今後の課題とした。

【ラベンダー・一歩の家・ポピー・クローバー・たびだちの家（共同生活援助）】

	開所数	一歩の家		たびだちの家		ポピー		クローバー		ラベンダー		合計	
		7名	87%	4名	73%	名	87%	6名	97%	4名	80%	23名	80%
4月	30	183	87%	88	73%	158	87%	176	97%	96	80%	654	80%
5月	31	177	81%	72	58%	159	85%	174	93%	84	67%	666	79%
6月	30	183	87%	86	71%	160	88%	172	95%	97	80%	698	86%
7月	31	183	84%	84	67%	159	85%	175	94%	92	74%	693	82%
8月	31	179	82%	76	61%	165	88%	173	93%	78	62%	671	80%
9月	30	181	86%	80	66%	139	77%	171	95%	93	77%	664	81%
10月	31	188	86%	84	67%	149	80%	177	95%	95	76%	693	82%
11月	30	183	87%	86	71%	159	88%	172	95%	89	74%	689	85%
12月	31	183	84%	80	64%	164	88%	176	94%	93	75%	696	83%
1月	31	144	66%	30	24%	143	76%	159	85%	44	35%	520	62%
2月	28	152	77%	64	57%	136	80%	155	92%	54	48%	561	74%
3月	31	191	88%	88	70%	170	91%	177	95%	96	77%	722	86%
合計・平均		2127	83%	918	62%	1814	82%	2057	93%	1011	69%	7927	80%

- ※ ポピーのメンバーが9月に福祉ホームに異動された。
- ※ 福祉ホームのメンバーが10月にポピーに転居された。
- ※ コロナ陽性者が発生したため、自宅帰省やホームを一時休所したため、令和4年1月と2月については、利用率が大幅に下がっている。

#### (5) 職員育成

- ・ コロナ禍であったため、研修の開催が少なかったが、オンラインの研修など  
にできる限り参加し、知識の研鑽に努めた。
- ・ 新人職員に対して、指導職員を付けて支援を行った。勤務の都合上れ違  
うことが多く、指導に苦勞することが多かった。職員のサポート体制の検討が  
必要であることが今後の課題と認識した。
- ・ コロナ禍において、感染拡大を防ぐことを目的として、できる限りホーム  
間を超えての集まりを控えていたため、アルバイト世話人に対して研修を  
行うことができなかった。研修を行えないことで、知識不足や孤立感が生  
まれないようにスタッフに対して、より一層の引継ぎの時間などを設けた  
ことにより、業務負担もあつたがアルバイトスタッフに安心感を与えるこ  
とができた。

#### (6) 地域交流

- ・ コロナ禍のため、地域の方々も集まるのが難しい状況であったため、うま  
く交流ができなかった。
- ・ 近隣の散歩やごみ出し時に積極的に挨拶することで交流を深めた。また、人  
数制限はあつたが、地域清掃にも参加した。

#### (7) 施設設備

- ・ 開所時から約10年入れ替えてなつたクローバーのエアコンについて、全居室  
の入れ替えを行った。
- ・ 一歩の家のウッドデッキが老朽化で穴が開いたため、ウッドデッキの入れ替  
え工事を行った。メンバーの洗濯や過ごし場所として活用することができ  
た。

## 2. おかりなの家（福祉ホーム・居宅介護の一部短期入所）

### おかりなの家（短期入所事業）

#### （1）総括

新型コロナウイルスによるクラスター発生に伴い、メンバーやご家族にご不安をおかけすることとなった。支援者も新型コロナウイルス陽性者の対応は初めてで、不安もある中での支援となった。そういった中で、法人全体のフォローとご家族からのお気遣いもいただき、奈良医大の笠原先生にもアドバイスをいただきながら、感染拡大を防ぎ事業を継続することができた。

新型コロナウイルスの影響もあり短期入所の受け入れを制限する時期もあったが、緊急的な受け入れ等もあり、生活支援へのニーズの高さや小瀬のグループホームへの期待を感じる1年でもあった。

#### （2）職員体制

- ・施設長 常勤1名
- ・生活支援員 常勤8名、嘱託1名、非常勤2名 サポート7名  
※内2名短期入所担当

#### （3）利用者の状況

##### ①年齢構成

###### 【福祉ホーム】

	20歳以下	21～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳	71歳以上	平均年齢
男	0	1	4	1	3	2	1	49.6
女	0	0	4	1	1	0	0	41.5
計	0	1	8	2	3	2	1	46.9

##### ②障害の程度 区分認定

###### 【福祉ホーム】

	区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
男	0	0	0	0	3	2	7
女	0	0	0	0	1	1	4
合計	0	0	0	0	4	3	11

(4) 重点方針及び事業内容 取り組み結果

○小瀬地区プロジェクト具体的レイアウト/入居者想定

- ・大枠の具体的レイアウトが決まってきた。
- ・補助金申請については県の担当者にも話を聞く中で、申請可能な補助金に関して、その基準を満たすために必要な設計について検討した。
- ・小瀬グループホーム第一期は高齢・介護度の高い方を想定しているため、現グループホームを含めて福祉ホームの役割を検討し、小瀬グループホームの入居希望の取り方についても検討を行った。

○人材確保/人材育成

- ・グループホームと同様に、十分な人材確保までに至らなかった。そのため派遣会社の紹介で派遣スタッフを1名契約している。
- ・人材不足の中で、夜遅くからの勤務や朝早くの退勤等様々な勤務形態を取り入れて、適材適所の人員配置を考えながら日々の勤務調整を行った。
- ・コロナ禍ということもあり、職員の外部の研修参加は十分にはできなかった。
- ・新型コロナウイルス対策や入居者の転居についてなど、関係者間で会議を行い、支援の共有に努めた。

【福祉ホーム】

稼働率 (%)

	開所数	やまぼうし		あおぞら		わかくさ		ひまわり		合計	
		4名	4名	6名	6名	4名	4名	6名	6名	20名	20名
4月	30	112	93%	180	100%	85	70%	163	90%	540	90%
5月	31	112	90%	186	100%	88	70%	157	84%	543	87%
6月	30	116	96%	180	100%	86	71%	164	91%	546	91%
7月	31	114	91%	186	100%	89	71%	160	86%	549	88%
8月	31	112	90%	186	100%	80	64%	157	84%	535	86%
9月	30	109	90%	180	100%	85	89%	184	89%	558	93%
10月	31	109	88%	186	100%	86	78%	184	90%	565	91%
11月	30	110	91%	180	100%	70	58%	165	91%	525	87%
12月	31	114	91%	186	100%	61	49%	169	90%	530	85%
1月	31	101	81%	128	68%	59	47%	137	73%	425	68%
2月	28	87	77%	168	100%	55	49%	150	89%	460	82%
3月	31	111	89%	186	100%	60	48%	171	91%	528	85%
合計・平均		1307	89%	2132	97%	904	61%	1961	89%	6304	86%

- ・令和2年9月途中から10月途中まで女性メンバーのグループホームとの転居に伴い一時的にひまわりユニットとわかくきユニットの定員を変更している。
- ・年間を通して男性1名の11月末での退居や、新型コロナウイルスのクラスター発生に伴い稼働率が減少した。

【ラベンダー、福祉ホームおかりなの家（短期入所）】

稼働率（％） ※福祉ホーム男性2床 女性2床 ※ラベンダー1床

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
男性	53%	51%	60%	62%	62%	90%	66%	58%	67%	40%	37%	95%	62%
女性	0%	20%	15%	11%	9%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	4%
全体	26%	36%	37%	37%	36%	45%	33%	29%	33%	20%	18%	47%	33%

- ・新型コロナウイルスのクラスター発生により短期入所の利用を控えていただくこともあったが、緊急対応が多かったため、令和2年度よりも稼働率は上がった。

（5）新型コロナウイルス感染予防対策

- ・1月17日（月）に発生した新型コロナウイルスのクラスターでは福祉ホーム内で10名のメンバーが陽性となった。県内でのコロナウイルス発生が増え始めていた時期であったため入院枠に空きがあり、9名の方が医療機関に入院することができ、持病のある方も重篤化することなく退院することができた。入院が決定していない間などは、支援者が防護服を着用してホーム内での対応を行った。
  - ・2月14日（月）に発生した案件では、3名のメンバーが陽性となった。メンバーの症状が軽症であったことと、県内での高齢者の感染者が増えていたこともあり、入院はせずホーム内で療養していただくこととなった。
- ※メンバー間での感染を防ぐ事の難しさがあったが、防護服の着用を正しくすることでほとんどの支援者が感染せずに業務・事業を継続することができた。
- ※日頃からの感染対策や体調管理を継続して行うことと、コロナ発生時の初期対応が重要であるため、ゾーニングの想定や防護服の着用をスムーズに行うことができるようにしておく必要がある。

（6）施設設備

- ・高齢の方の転居に伴い、必要な設備（機械浴）に関して補正予算で改修工事を行った。

## IV.地域生活部門

## 1. デイケアセンターかざぐるま（居宅介護等）

### (1) 総括

新型コロナウイルスの感染状況を踏まえながら、年間を通してニーズの高い余暇活動についても行先に制限を設けたり、感染状況の高い時には公共交通機関の利用も制限するなど、感染防止に努めながらサービス提供を行った。通院介助については、利用ニーズも増えており、提供量も前年度から増加していた。

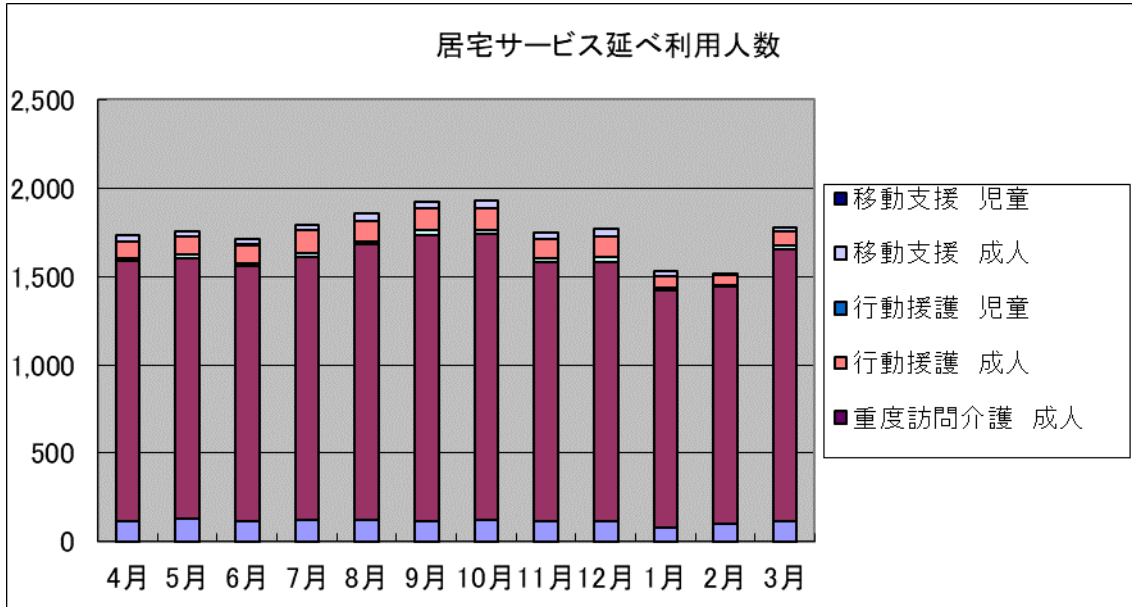
また、ヘルパーの人材不足については、養成機関への案内や求人広告を継続して行ったり、副業を行える福祉団体への情報提供なども行い、人材確保に努めたが、十分な成果を上げることができなかった。

### (2) 職員体制

- ・所属長                      常勤 1 名（生活支援センター兼務）
- ・支援員                      常勤 15 名（専従 1 名、兼務 14 名）
- ・サポート(登録ヘルパー) 約 15 名

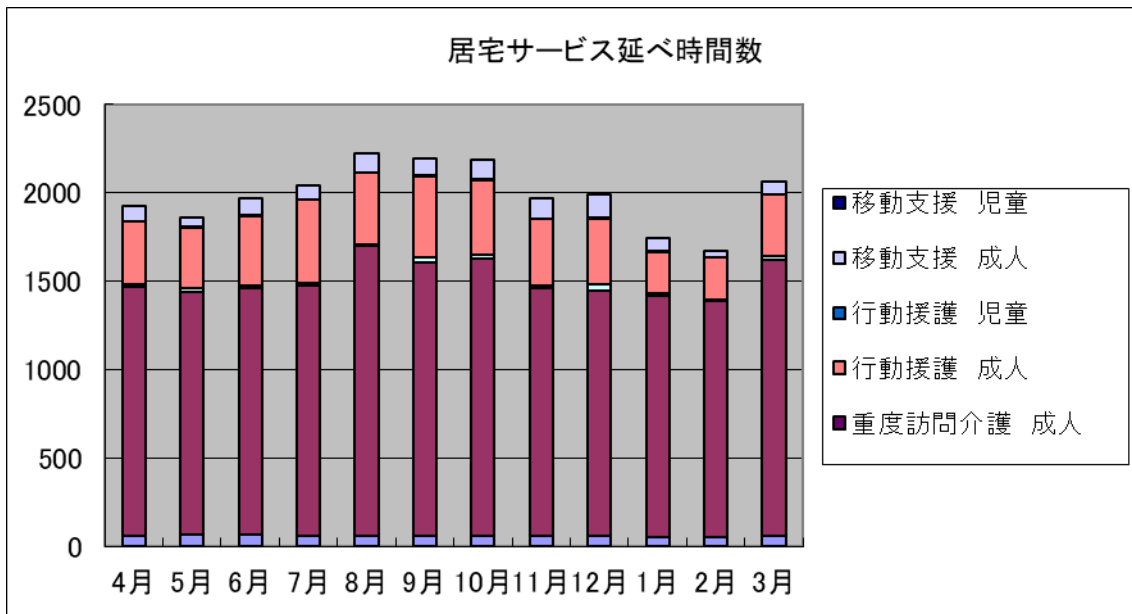
### (3) 利用者の状況

令和3年度居宅サービス延べ利用人数														
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
居宅介護 (家事援助)成人	114	132	115	125	124	116	121	116	117	77	101	112	1,370	97%
居宅介護 (身体介護)成人	1,475	1,471	1,442	1,488	1,556	1,616	1,618	1,463	1,467	1,345	1,339	1,542	17,822	105%
居宅介護 (身体介護)児童	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
居宅介護 (通院介助)成人	15	24	18	19	16	29	26	22	29	13	12	19	242	128%
重度訪問介 護 成人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
行動援護 成人	93	98	104	131	117	125	123	111	116	66	56	84	1,224	120%
行動援護 児童	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	11	110%
移動支援 成人	34	26	34	31	46	32	39	36	42	26	11	21	378	106%
移動支援 児童	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
合計	1,732	1,752	1,714	1,795	1,860	1,919	1,928	1,749	1,772	1,528	1,519	1,779	21,047	106%



令和3年度居宅サービス延べ時間数														
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
居宅介護 (家事援助)成人	57	66	67.5	62.5	62	58	60.5	58	58	54.5	50.5	56	710.5	101%
居宅介護 (身体介護)成人	1411	1374.5	1396	1412	1637	1546.5	1564.5	1401	1391	1361	1336.5	1562	17393	110%
居宅介護 (身体介護)児童	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
居宅介護 (通院介助)成人	12	21.5	15	14	11.5	29.5	21.5	15	30.5	19.5	11	22	223	121%
重度訪問介護 成人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
行動援護 成人	359	344	392	472.5	404	461	426.5	380	377	232	235.5	353	4437	116%
行動援護 児童	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0	2	22	92%
移動支援 成人	86	53	97	82.5	107.5	99	112	115.5	131	73	37	68	1062	101%
移動支援 児童	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
合計	1927	1861	1969.5	2045.5	2224	2196	2187	1971.5	1989.5	1742	1670.5	2063	21566.5	100%





(4) 重点方針及び事業内容 取組結果

○居宅サービス事業所の独立した組織化と人材確保、育成

- ・人材確保について、ハローワークや介護労働安定センターに訪問して求人案内、求人媒体を使っての求人掲載など行ってきたが、成果として上げることができなかった。副業を行うことができる福祉団体にも求人情報を提供した中で、1名の応募があり登録につなげることができた。
- ・現在グループホームに勤務しているアルバイトスタッフに対して、初任者研修受講費用補助制度を活用した資格取得の啓発についても、ホームの業務以上に勤務できる日があまりなく、啓発までには至らなかった。

○本人からの「やりたい、楽しい」に応える多様な支援の確保。本人の自立性を養う。

- ・アフター5では、コロナ禍ではあるが、運動メニューと文科系メニューを実施した。文科系では新型コロナウイルスの感染状況が落ち着くまでは、料理メニューを中止していたため、キャンセルされる方もいた。再開した料理メニューでは、自分が食べるものは自分で調理できるよう工夫しながら実施した。令和4年1月以降の感染拡大に伴い、再び活動を中止することになった。

○地域資源との共同による選択肢の確保

- ・年間を通じて新型コロナウイルスの感染状況も拡大していたため、ボランティアグループや講師を招いた取り組みは実施することができなかった。

## (5) 職員育成

- ・感染防止に努めながら、ヘルパーミーティングを定期的を開催し、コロナ禍での感染予防に対する勉強や行先の感染対策状況の情報交換などを実施した。

## (6) 地域との交流・連携

- ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、ボランティアグループや講師を招いた小集団での利用は実施することができなかった。

## 2. 生活支援センターかざぐるま（相談支援）

### (1) 総括

相談件数は、基幹相談 614 件、委託相談支援業務 6,694 件、計画相談業務 1,974 件、計 9,282 件と前年の 7,773 件から 1,509 件増加している。家族、主介護者の病気といった家庭環境での大きな変化に伴う相談や警察や司法関係と連携して動く必要がある社会生活上でのトラブルを抱えたケース、学齢期での不登校や学校でのトラブルから福祉とつながるケース、新型コロナウイルスに関連した相談など相談内容は多岐に渡っている。学齢期では、発達障がいの方の新規利用も増加していた。相談支援の手法についても、感染状況にあわせて訪問や対面での会議を控え、電話等での対応やリモート会議などを行い、感染防止に努めながら相談支援を行った。

入院時コミュニケーション事業について、これまで一日の利用時間の限度も設けられていたが、生駒市にも働きかけた結果、必要に応じて検討してもらえることとなり、今回、コロナ禍で付き添いした場合、退院まで見守りの交代が出来ない状況で利用時間の限度を超えて利用を認めてもらえることとなった。

### (2) 職員体制

- |          |                                  |
|----------|----------------------------------|
| ・センター長   | 常勤 1 名<br>(居宅管理者、居宅兼務、相談支援専門員兼務) |
| ・副センター長  | 常勤 1 名 (相談支援専門員兼務)               |
| ・相談支援専門員 | 常勤 4 名                           |
| ・相談員     | 常勤 1 名 (居宅兼務)、非常勤 1 名            |
| ・事務員     | 常勤 1 名 (居宅事務兼務)                  |

### (3) 利用者の状況

※別紙①「令和3年度生活支援センターかざぐるま概況報告」

### (4) 重点方針及び事業内容 取組結果

#### ○地域の中核的な役割を担う相談支援の構築

- ・生駒市委託業務（基幹相談支援強化等委託業務）として、地域の相談支援事業所からの相談にも応じ、助言等行いながら連携強化に取り組んだ。
- ・報酬改定に伴い、モニタリング対象月以外での面談や会議も加算されたこともあり、必要性に応じて面談や会議を実施することができた。

#### ○本人の状態像を把握し、適切な事業所の選定や合理的配慮

- ・高校3年生の卒業時や就労継続支援事業所、一般企業を新たに利用される方に対して、本人の状態像を把握するため、自閉症 e サービスの評価キットをレンタルして活用する予定をしていたが、令和3年度からレンタルは中止となったことで、実施には至らなかった。ただ、発達検査を受けられたことのある方や手帳取得時の発達検査の情報を取得するなど、出来るだけ客観的な視点も加えながら、本人の状態像を把握し事業所選定や支援の方向性の共有を行った。

#### ○軽度発達障がい者への支援と連携の強化

- ・支援センターとして、ソーシャルスキルトレーニングの機会をもつことはできなかったが、学校訪問など関係機関との連携を図ってきた。

#### ○社会生活力を高めるプログラムの見直し

- ・コロナ禍でも感染防止に努めた中で実施できるプログラムを検討していたが、実施するまでには至らなかった。

### (5) 職員育成

- ・新型コロナウイルスの影響で対面での研修機会はほとんどなかったが、オンライン研修で新たに配属となった職員に対して相談支援従事者研修や障害支援区分認定調査員研修など受講させることができた。
- ・学齢期から高齢期と幅広い年齢層の相談支援を行う中で、自立支援協議会の各部会での勉強会や介護保険との併用など直面する支援の中で勉強する機会となった。

#### (6) 地域との交流・連携

- ・新型コロナウイルスの影響もあり、新たな地域資源を構築していくための交流等の機会を作ることはできなかった。

#### (7) 施設設備

- ・経年劣化した事業所内の金庫の入替を行った。
- ・コピー複合機の入替は、再リースを行ったため、1年延期した。

### 3. 地域生活支援拠点等事業

#### (1) 総括

啓発イベントや事業所向けの説明会を予定していたが、新型コロナウイルスの影響で中止することとなり、一人暮らし体験も積極的な運用を行うことができなかった。緊急時の受け入れは2件あり、本人や家族のセーフティネットとして機能することができたが、受け入れ時のアセスメントや支援の方法についても改善していく必要性を感じた。

#### (2) 職員体制

- ・拠点担当職員 2名（内、2名グループホーム兼務）

#### (3) 重点方針及び事業内容 取り組み結果

##### ○他事業所との連携強化

- ・市内事業所への周知は、令和4年2月24日に生駒市と共催で説明会を行うことになっていたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い延期を余儀なくされた。次年度に地域生活支援拠点事業の説明と緊急時や一人暮らし体験の付き添いの協力を要請していくため、延期していた事業所への説明会を計画していく。

##### ○コーディネーター事業

- ・相談機能登録者、一人暮らし体験登録者に拠点事業としての担当者を配置し、モニタリング会議への参加、相談支援専門員、事業所職員とも役割分担しながら支援を行ってきたが、兼務している業務負担の過多もあり、積極的な取り組みまでは実践することができなかった。

##### ○啓発活動事業

- ・家族や当事者向けの啓発講座はコロナ禍の影響もあり、実施することができなかった。

- ・自立支援協議会くらし部会にて、地域生活支援拠点の現状報告を行った。そこであがった課題等を整理して、緊急時や一人暮らし体験の付き添いの協力要請とあわせて、地域生活支援拠点等事業の啓発を行うため説明会を行う予定をしていたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い次年度に延期することとなった。

○予防的対応としての相談会の実施

- ・コロナ禍の影響もあり、予防的な対応として相談会を開催するには至らなかった。

○自立生活援助事業の検討

- ・拠点相談機能での課題でもある定期的な訪問や救急搬送時の動向など、必要性は感じているが、体制等も含め引き続き検討している。

【利用実績】

1. 緊急受け入れ事業 2件

- ・令和3年12月と令和4年3月に2件の緊急時の受け入れ対応の依頼を受け、実施した。

2. 一人暮らし体験事業 0件

- ・新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、積極的な体験事業の啓発を行わなかったこと、希望者も新型コロナウイルスの感染が終息してから希望される方が多く0件となった。

3. 相談機能 登録者 5名

- ・登録者は前年度から継続して5名の登録に留まった。

4. コーディネーター事業 270件

事業項目	件数
緊急時受け入れコーディネーター	13
緊急時受け入れ対応	2
一人暮らしの体験に関する相談	0
地域生活支援拠点事業の整備・運営に関すること	5
その他地域生活支援拠点事業に関する相談	0
相談機能に関すること	250
計	270

#### (4) 職員育成

- ・新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、令和4年1月に兵庫県明石市の事業所の見学受入れも中止となるなど、他市町村での取組みや実践について学ぶ機会を作ることはできなかった。
- ・延期にはなったが事業所向けの説明会の準備を進めるにあたり、現状の課題等について確認する機会となった。

#### (5) 事業所独自のリスク対策

- ・緊急時の受入れで依頼される時間は深夜になる可能性もあり、受け入れるにあたっての本人情報の取得や感染症へのリスク対応など、確認方法の整理も課題があることがわかった。

#### (6) 地域との交流、連携

- ・自立支援協議会くらし部会にて現状報告を行い、課題整理をすすめながら事業所への説明会を計画していたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて延期することとなった。

【別紙①】

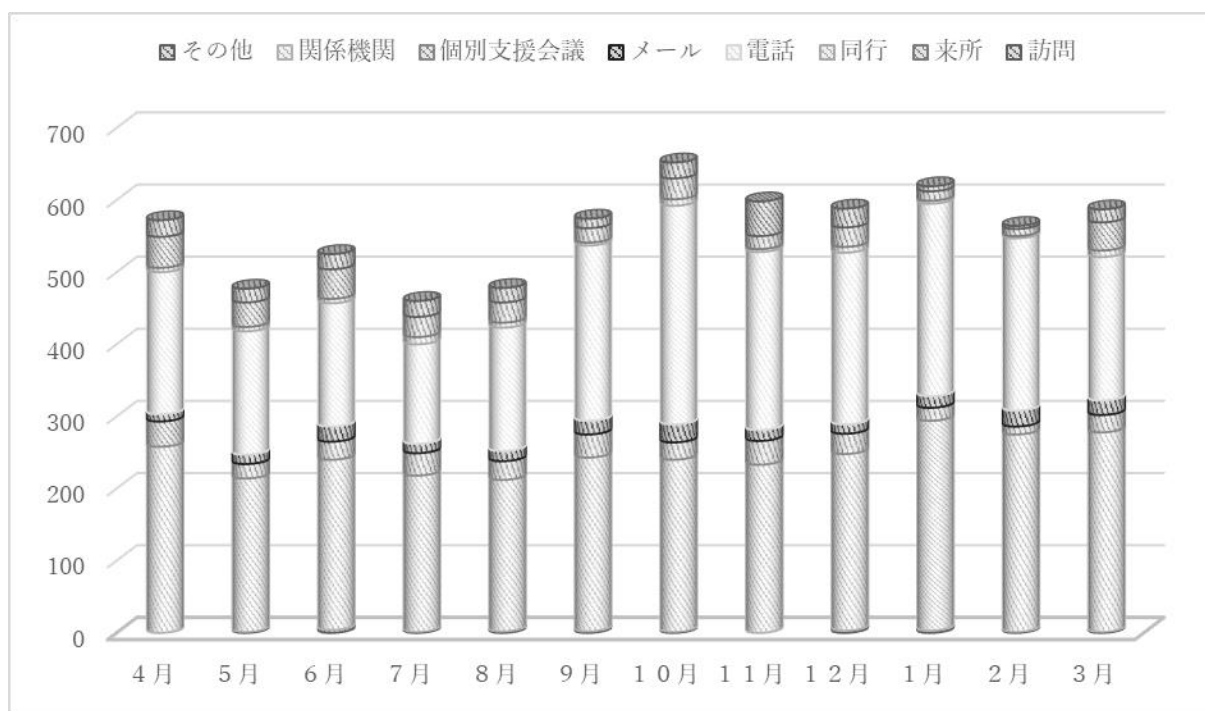
令和3年度生活支援センターかざぐるまの概況報告

1. 障害者相談支援事業の概要

(1) 障害者相談支援事業の件数

	訪問	来所	同行	電話	メール	個別支援 会議	関係 機関	その他	合計
4月	23	43	6	197	10	35	258	0	572
5月	19	34	6	171	13	20	213	1	477
6月	21	41	6	171	21	25	236	4	525
7月	22	28	10	138	13	31	217	1	460
8月	20	28	7	171	14	26	210	2	478
9月	13	20	4	243	19	32	241	2	574
10月	22	29	9	303	25	24	239	1	652
11月	48	18	4	247	15	33	233	0	598
12月	26	27	8	238	13	28	245	3	588
1月	7	13	4	267	16	18	291	3	619
2月	4	10	3	239	22	11	274	1	564
3月	18	39	9	199	20	24	277	1	587
合計	243	330	76	2584	201	307	2934	19	6694

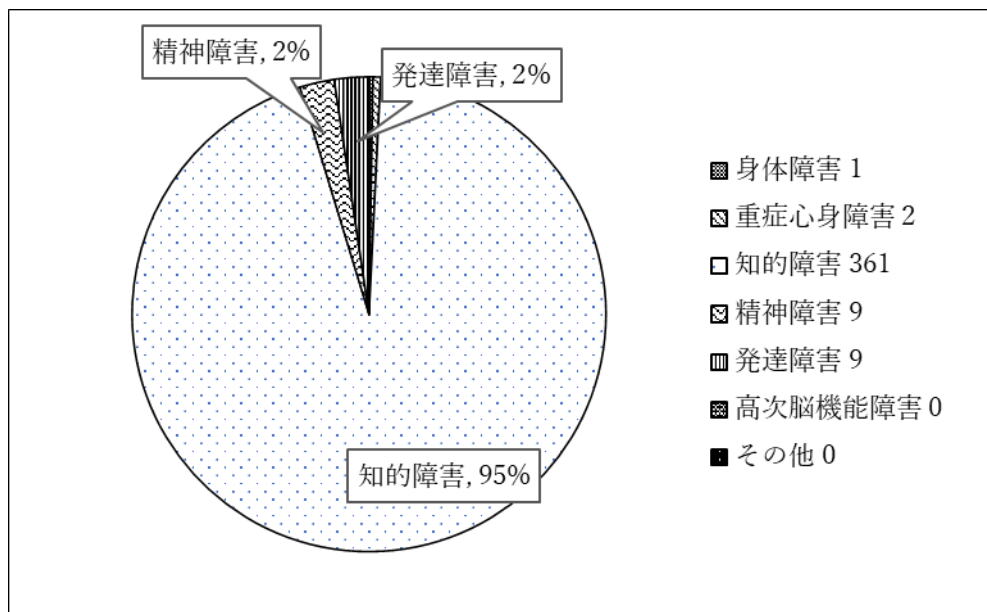
(2) 障害者相談支援事業の件数の推移



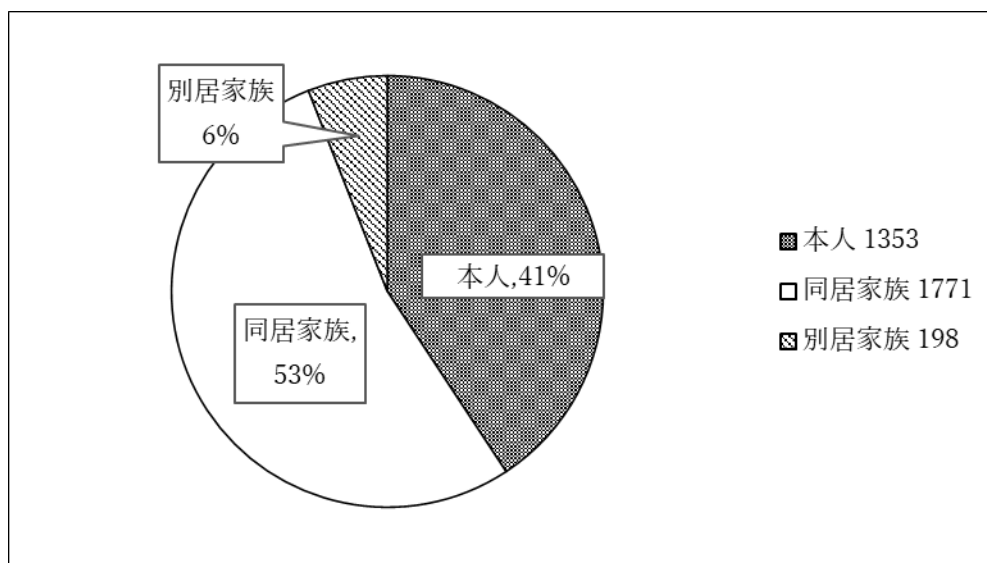
(3)障害者相談支援事業を利用している障がい者等の人数

	実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他
障害者	326	1	2	316	7	0	0	0
障害児	56	0	0	45	2	9	0	0
計	382	1	2	361	9	9	0	0

(4)障がい種別の割合



(5)相談・連絡調整者の割合





## 2. 障害者相談支援事業の内容について

福祉サービスの利用等に関する支援	障害や病状の理解に関する支援	健康・医療に関する支援	不安の解消・情緒安定に関する支援	保育・教育に関する支援	家族関係・人間関係に関する支援
2807	221	435	520	25	305
家計・経済に関する支援	生活技術に関する支援	就労に関する支援	社会参加・余暇活動に関する支援	権利擁護に関する支援	その他
59	72	334	64	89	1763

### (1)福祉サービスの利用等に関する支援

- ・ 障害福祉サービスの利用に関する相談、調整、申請援助
  - ・ 障害支援区分認定に関する申請援助、調査
  - ・ 障害福祉サービスの内容に関すること
  - ・ 障害福祉サービス受給者証に関すること
  - ・ 児童福祉法に基づく放課後等デイサービスに関すること
  - ・ 市内転入、市外転出に伴う情報提供、申請援助
  - ・ 利用者負担上限額管理について情報提供、申請援助
  - ・ 介護保険への移行や併給に関すること
  - ・ 医療機関から退院後の地域生活支援に関すること
  - ・ 障がい者手帳に関すること
  - ・ 日常生活用具、補装具の給付に伴う情報提供、申請援助
  - ・ 事業所利用に向けた見学同行
  - ・ 事業所退所に関する相談・調整援助
  - ・ 福祉サービス事業所の空き状況等に関する情報収集
  - ・ サービス提供事業所との関係性の構築に関する相談、調整
  - ・ 訪問看護の利用に関すること
  - ・ 新型コロナウイルスによる休校に伴う放課後等デイサービスの支給量に関すること
  - ・ 新型コロナウイルスによる就労継続支援事業、生活介護事業等の在宅支援に関すること
- など

### (2)障害や病状の理解に関する支援

- ・ 本人の病状に関する相談
- ・ 本人の障害特性の理解の促進

- ・本人の障害特性の分析、評価に関すること
- ・本人自身の障害受容に関すること

など

### (3)健康・医療に関する支援

- ・本人の状態に見合った医療機関の紹介、連絡調整
- ・本人・家族の健康状態の変化についての相談
- ・病状について医師との連携、連絡、調整
- ・医療機関への同行支援
- ・入院に伴う医療機関、家族、支援事業所との連携、連絡、調整
- ・難病発症に伴う医療機関、支援事業所との連携、連絡、調整
- ・健康維持に関する相談

など

### (4)不安の解消・情緒安定に関する支援

- ・一人暮らしの方の生活の不安に関する相談、生活状況の確認
- ・本人の不安定な状況に対しての情緒安定に関する相談
- ・本人の行方不明について
- ・パニック時の他傷行為、自傷行為に関する相談、連絡、調整、緊急訪問
- ・当事者とサービス提供事業者間でのトラブルに関する相談
- ・触法行為への対応相談
- ・社会的不適応行為に対する対応相談
- ・ひきこもり、不登校、社会参加の難しいケースの相談
- ・新型コロナウイルスに対する不安、心配に関する相談

など

### (5)保育・教育に関する支援

- ・学校の通学に関する相談
- ・養護学校の進路に関する相談
- ・高校進学に関する相談
- ・不登校に関する相談
- ・本人の状況確認のための養護学校訪問

など

### (6)家族関係・人間関係に関する支援

- ・当事者間でのトラブルに関する相談
- ・交際相手とのトラブルに関する相談

- ・家族と本人との関係性についての相談
- ・家族の入院、退院に伴う医療機関、支援事業所との連携、連絡、調整
- ・家族状況の安定に関わる介護保険事業所との連携、連絡、調整
- ・家族・兄弟支援の介入についての相談
- ・対人関係の構築に関する相談
- ・地域住民との関係構築に関する相談
- ・SNS の利用に関するトラブルについての相談

など

#### (7)家計・経済に関する支援

- ・障害基礎年金に関する相談、申請同行
- ・医療費の助成制度に関すること
- ・生駒市生き生きクーポン券に関すること
- ・国民健康保険に関すること
- ・特別障害者手当に関すること
- ・特別児童扶養手当に関すること
- ・生活保護に関すること
- ・権利擁護事業の利用による金銭管理の進捗状況

など

#### (8)生活技術に関する支援

- ・育児に関すること
- ・引っ越しに関すること
- ・一人暮らしの生活に関する相談
- ・生活状況の確認のための定期訪問

など

#### (9)就労に関する支援

- ・就職活動に関すること
- ・高校卒業後の就職先に関すること
- ・就業・生活支援センターへのケース報告、連絡、調整
- ・ハローワークへの連絡、調整、同行
- ・仕事に関する相談、連絡、調整
- ・就労先へのケース報告、連絡、調整、訪問
- ・就労の継続に関する相談

など

(10)社会参加・余暇活動に関する支援

- ・社会生活力を高めるプログラムに関すること
- ・インフォーマルな資源の紹介、連絡、調整
- ・障がい特性に応じた地域資源の紹介
- ・ひきこもり状況からの社会参加へ向けた相談

など

(11)権利擁護に関する支援

- ・成年後見人へのケース報告、連絡、調整
- ・成年後見制度の情報提供
- ・権利擁護事業に関する情報提供、連絡、調整
- ・親亡き後の本人の権利擁護に関すること
- ・虐待の疑いに関する相談
- ・本人の相続権に関すること
- ・債務整理に関する専門職との相談、調整

など

(12)その他

- ・障害福祉サービスの聞き取りにおける日程調整
- ・サービス調整会議における日程調整
- ・機関紙「かぜいろだより」の取材、発行

など

### 3. 障害者相談支援事業の傾向について

- ・令和3年度相談業務件数は6,694件で前年度の5,471件から1,223件増加している。前年度から引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う相談や手続き等の対応の増加、また、発達障害の方のケースが増加している。
- ・令和3年度相談対象者は382名となり昨年度から21名増加している。成人では、家族の高齢化により将来の不安に関する相談等が増加している。学齢期では、発達障害の方の新規利用などが増加している。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大により、就労継続支援事業、生活介護事業等の在宅支援に関する本人、ご家族や事業所からの相談、調整等の対応が前年度から引き続き多かった。
- ・前年度同様、従来関わってきたケースでも家族状況の変化等による動きが多く、入退院を繰り返すケースや家族の高齢化、病気等により今後の生活支援等を調整するケースもみられた。健康面、体調面の変化は家族だけでなく、本人自身にも起こってきており、身体機能の低下や内部疾患、難病発症と医療面で継続的な処置や支援、生活環境を見直し、介護保険への移行等が必要になるケースも増えていた。

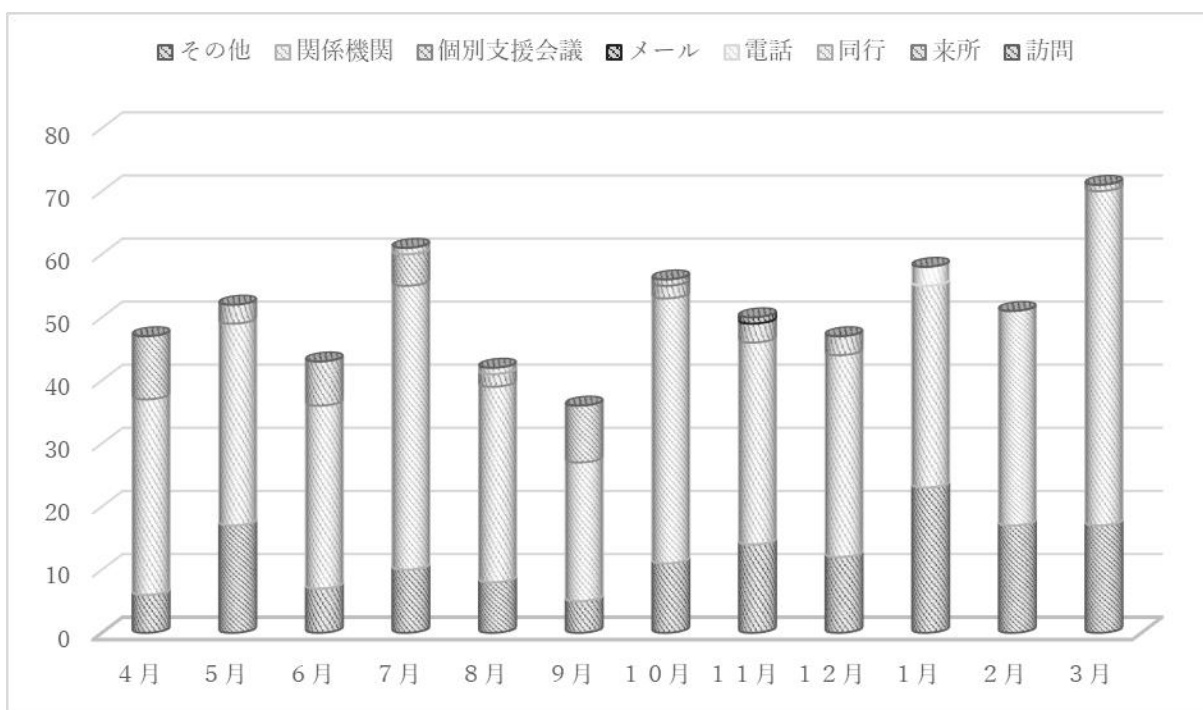
- ・病気のため亡くなられた利用者もおり、利用者本人への支援の在り方や家族との関わりなど改めて相談支援の役割を見つめ直す機会となった。
- ・軽度の知的障がいや発達障がい者の中には、自身や家族が障がいがあることへの抵抗感、否定感を感じていることもあり、障がい受容に対する支援などに関わることもあった。

#### 4. 基幹相談支援センター等機能強化事業の概要

##### (1) 基幹相談支援センター等機能強化事業の件数

	訪問	来所	同行	電話	メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
4月	0	0	0	0	0	10	31	6	47
5月	0	0	0	0	0	3	32	17	52
6月	0	0	0	0	0	7	29	7	43
7月	0	0	1	0	0	5	45	10	61
8月	0	0	1	0	0	2	31	8	42
9月	0	0	0	0	0	9	22	5	36
10月	0	1	0	0	0	2	42	11	56
11月	0	0	0	0	1	3	32	14	50
12月	0	0	0	0	0	3	32	12	47
1月	0	0	0	3	0	0	32	23	58
2月	0	0	0	0	0	0	34	17	51
3月	0	0	0	0	0	1	53	17	71
合計	0	1	2	3	1	45	415	147	614

##### (2) 基幹相談支援センター等機能強化事業の件数の推移



## 5. 基幹相談支援センター等機能強化事業の内容について

	自立支援協議会	指定特定相談支援事業所連絡会	研修等企画	会議等出席
件数	59	0	9	42
	指定特定・指定障害児相談支援事業所への助言等	関係機関との連携	拠点一人暮らし体験の調整	その他
件数	318	38	4	148

### (1)自立支援協議会

- ・障がい者地域自立支援協議会担当者会
- ・障がい者地域自立支援協議会暮らし部会
- ・障がい者地域自立支援協議会権利擁護部会
- ・障がい者地域自立支援協議会こども支援部会

### (2)指定特定相談支援事業所連絡会

- ・市内指定特定相談支援事業所連絡会

### (3)研修企画等

- ・研修会等の参加状況
  - ・6月7日 令和3年度障害支援区分認定調査員研修（オンライン）
  - ・9月30日 令和3年度奈良県相談支援従事者初任者研修（オンライン研修）
  - ・10月6日、7日 令和3年度全国知的障害関係施設長等会議（オンライン研修）

- ・「かんたん・おいしい・夕食作り」の企画、実施

18歳以上の知的障がい者を対象に毎月第4土曜日の17時30分から20時00分までたけまるホール調理室で料理教室を行っており、参加者が自立に向けた調理技術を習得するとともに、参加者同士の交流を図るためにプログラムを予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて中止した。

- ・サロン活動の実施

18歳以上の知的障がい者を対象に毎週土曜日の9時30分から17時までサロン活動

を行っていたが、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、飲食を伴わないよう 13時から 17時に開所時間を変更する、手洗い、アルコール消毒、検温を実施した中で、サロン活動を行った。感染状況の拡大に伴い 10月から 3月までは原則中止することとなった。感染に対する不安から参加を自粛する方もおり、参加人数は昨年より 52人少なかった。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
参加人数	35人	42人	45人	36人	32人	38人	1人	2人	4人	3人	1人	1人

延べ参加人数 240人

・生活支援センターかざぐるま主催企画、実施

生活支援センターかざぐるまが主催して、当事者同士が横のつながりを作っていくことを目的にバーベキュー大会や新年スポーツ大会を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて中止した。

・じょぶコンの企画、実施

生活支援センターかざぐるまが主催して、就労している方たちが仕事の悩みを当事者間で話し合ったり、いろんな仕事があるということの情報交換を行うことを目的に開催を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて中止した。

(4)会議等出席

- ・処遇困難ケースの関係機関調整会議への出席
- ・利用者ケース会議でのスーパーバイズとして出席

(5)指定特定・指定障害児相談支援事業所への助言等

- ・サービス等利用計画に関する相談、助言等
- ・サービス担当者調整会議の進行相談、助言等
- ・障害福祉サービス事業所に関する情報提供、相談、助言等
- ・市内転入、市外転出に伴う相談、助言等
- ・介護保険への移行に関する相談、助言等
- ・医療機関から退院後の地域生活支援に関する相談、助言等
- ・障がい者手帳に関する相談、助言等
- ・事業所退所に関する相談、助言等

(6)関係機関との連携

- ・こどもサポートセンターゆうからの新規相談等

- ・こども家庭相談センターからの障害特性に応じた進路に関する相談等
- ・他の生活支援センターと連携して取り組んでいるケース
- ・地域の事業所の説明会への参加

(7)拠点一人暮らし体験の調整

- ・一人暮らし体験事業の紹介、説明
- ・地域生活支援拠点職員への情報提供

(8)その他

- ・地域の事業所からの報告等
- ・虐待行為に関する状況確認、報告等
- ・サロン等への参加

\* 定期的な会議の参加状況の一覧

会議名	内容	日時
障がい者地域自立支援協議会担当者会	行政・生駒市内の相談支援事業所が集まり、相談支援事業に関することや困難事例への対応に関する協議・調整、地域ネットワークの構築、情報交換を行う。	5月25日、7月27日、9月28日、11月30日、3月29日
市内指定特定相談支援事業所事務連絡会	市内の計画相談事業所が集い、計画相談業務や制度に関する情報共有、ケースに関する検討を行い、市内の計画相談の質の向上に努める。	7月27日
障がい者地域自立支援協議会くらし部会	行政・生駒市内相談支援事業所・生活に関わる関係機関から各担当者が集まり、暮らしに関する課題解決に向けた協議、活動や地域生活支援拠点についての進捗の共有や体制整備に関する意見交換等を行う。	4月26日、6月28日、8月30日、10月25日、12月20日、2月28日
障がい者地域自立支援協議会権利擁護部会	行政・生駒市内相談支援事業所から各担当者が集まり、障がい者の権利・啓発に向け、虐待防止マニュアルの見直し、選挙啓発用の冊	4月22日、6月23日、8月26日、10月28日、12月23日、2月24日



	子の作成、あいさポーター研修、協議、活動を行う。	
障がい者地域自立支援協議会こども支援部会	行政・生駒市内相談支援事業所から各担当者が集まり、障がい児のたけまるノートの啓発、不登校に関する勉強会などの活動を行う。	4月26日、5月20日、7月21日、10月21日、12月16日、2月17日

## 6. 基幹相談支援センター等機能強化事業の傾向について

- ・相談件数は614件と前年度から299件増加している。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、会議等への参加の減少、研修やイベント等の企画が中止されているが、関係機関への指導、助言等の機会は増えてきている。
- ・自立支援協議会においては、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、zoomを活用したりリモート会議の実施や参加人数を少数で開催するなど、感染防止に努めながら開催した。昨年開所した事業所は休止することとなったが、新たに2ヶ所の相談支援事業所が開所しており、担当できる件数の確認や事業所の情報共有を図っている。また、相談員が一人で行っているため、孤立しないよう相談しやすい関係性を築くように努めてきた。
- ・利用者の高齢化に伴う介護保険への移行や併給を検討するケースも増えており、地域包括支援センターやケアマネージャーとの連携や情報共有を行う機会が増えていた。
- ・知的障がいのある方だけでなく、同居世帯に精神疾患、知的障がい、発達障がいなど、複合課題を抱える世帯の相談も増加しており、精神障がいの相談支援機関、保健所、発達障害者支援センター、介護保険関係の機関、精神科医療、教育関係機関、児童福祉関係機関（こどもサポートセンターゆう、子ども家庭相談センター）等との関わりが多くなっている。
- ・軽度知的障がい者、発達障がい者の対人関係や地域でのトラブル、ひきこもり、不登校といった課題は近年増加傾向にあり、社会生活への参加や糸口を引き出す支援が求められている。不登校児においては、学校での失敗体験、劣等感、自己否定感などを強く感じており、本人が自信を取り戻していくような居場所、人とのがりが必要と感じている。また、そうした対人関係を避け、ゲームやアニメ、インターネットの世界に自己肯定感を見出しているケースもあり、依存状態となって外部とのつながりを失ったり、課金等から金銭問題に発展する事もある。その一方でeスポーツなどの分野を扱う就労支援事業所などもあり、新たな可能性や取り組みの一環となっている。